

「過越の祭り」

キリスト伝の学びは、主イエスが成された奇跡や事柄を学ぶだけではない。最終目的の十字架と復活に向かって限られた時間の中で、現実の人としての主イエスがどのような思いで生きられたのかを覚えながら、慈しみ深い主の恵みを受け取らせて頂く学びである。

ガリラヤのカナで奇跡を行われた後、主イエスはどこに行かれたのだろうか。それは故郷のナザレではなく、地方都市カペナウムである。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕するところありません」(マタイ8:20) とのみことばに、野宿生活だろうと思っていたかもしれないが、そうではない。カペナウムをご自分の町、拠点とされたのである。主イエスはカペナウムからエルサレムへ、また帰ってきてカペナウムから各地へと出かけられた。

さて過越の祭に行かれた主は、まず宮きよめを行われた。田舎から来たポット出の、30そこそこの若者が、悪く言えば神殿で騒ぎを起したのである。しかしこれは主イエスの預言者としての一面である。預言者は神のことばを相手が誰であろうと、何をされても語る責任がある。聖と欲が入り混じってしまっている神殿。主イエスはそれをあからさまに非難されたのである。

それは過越の祭の時であった。主イエスには三年後の過越の祭の十字架が見えていた。人間の妬み、憎しみにより、全く罪の無い方が罪ある者とされ、十字架に架けられる。神の前には過越の小羊として、主イエス自身が殺され、復活することに向かって行かれたのである。

[聖書の学び]

I、過越の祭

(ヨハネ2:13~16)

1、主イエスが行かれた、エルサレムでの過越の祭とは何でしょうか。(出エジプト12章)

①イスラエル民族がエジプトを脱出する前夜に起きた大事件に起因している。

- ・エジプト王は奴隷のイスラエル民族を解放しなかった・・・神様は10の災いが起こされた。
- ・最後の災いは全ての家で生まれた初めての子どもが死ぬという災いであった。イスラエルに知らされた約束。
- ・家の鴨居に小羊の血を塗った家だけ、災いが通り過ぎるという約束、信じた家だけ死人が出なかった。

②イスラエル民族はこの事を忘れないように毎年その日を記念として過越の祭をした。

2、主イエスの時代の過越の祭は具体的にどんなことをしたのでしょうか。(7日間の祭り)

- ①一年に一度大祭司が、まず神の前に小羊を殺して自分の罪を赦して頂き、次に至聖所でイスラエル民族の罪のために小羊を殺して贖罪をする。(ヘブル9:2、7 p447)

②一般の人々も、自分の罪のために小羊を神殿の祭司のところに連れてきて献げ、自分の身代わりとした。

(ヘブル9:22 p448)

③安息日の前の夜(木曜日)、家族や親しい人たちと発酵させないパンと苦菜を夕食に食べ、エジプトを脱出したことを覚える。---- 3年後、主イエスの最後の晩餐はこの食事 (ヨハネ13:1 p211)

Ⅱ、宮きよめ (ヨハネ2:13~18)

1、当時、過越の祭の神殿の礼拝の場所、異邦人の庭はどうなっていたのでしょうか。
(2:14)

2、主イエスはこれを見て何をされ、商売人たちに何と言われたのでしょうか。
(2:15、16)

3、聖なる神殿の中で、人間の便宜を図るための動物を売る商売を許していた祭司たちやユダヤ人たちはリベートを貰っていました。彼らは何と言いましたか。(2:18)

当時、商売の禁止、行動の制限等には、ローマ皇帝のカイザルの印章(しるし)が権威の象徴として、用いられていました。彼らの言葉を要約すると：神殿でなぜこんなことをするのか！誰の命令なのか？しるしを見せろ！

Ⅲ、全てを知っておられる主イエス (ヨハネ2:19~25)

1、怒る人たちに、主イエスは何を連想され、何と言われたのでしょうか。(2:19)

①「どんなしるしを見せてくれるのか」… 神の命令による、神のしるし

②神の神殿である主イエス体…

2、主イエスはこのエルサレムにいる間にも、多くの奇跡(しるし)を行われました。
多くの人々はどうしましたか。(2:23)

3、信じるという人々にほほえみながら、しかし主イエスの心はどうだったのでしょうか。
(2:24, 25)

ルカ 6:46~49(p123) } を読みましょう。…私たち信じる者はどうしたらいいのでしょうか。
マタイ10:38 (p19)

* **ディスカッション** (心を開いて話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。